



市政羅針盤

市長が自ら、市政運営の方針を分かりやすくお伝えします。 〇秘書課 ☎ 36-7117

今月のテーマ 島田市を未来につなぐキーワード「循環型社会」「縮充」「DX」

梅の蕾もほころび、日ごとに昼間の時間が長くなって「光の春」を感じます。寒さ厳しい時期だからこそ、わずかな春の息吹にも心躍りますね。

さて、3年目に突入した新型コロナウイルス感染症のパンデミックは、これまで見過ごしてきた社会のさまざまな課題をあぶり出しました。朝夕の通勤や長時間勤務が当たり前だった働き方が見直され、在宅勤務やテレワークが一気に進みました。効率性・生産性・経済性を重視して築き上げてきたサプライチェーンの脆弱性も浮き彫りになり、国内での工場の新設や設備の導入に補助金を創設するなど、国を挙げて国内の生産拠点などの整備に力を入れるようになりました。また、世界各国に比べ日本がどれほどデジタル化の後進国であるかという現実を突き付けられ、地方自治体にとってデジタルトランスフォーメーション（DX）による業務の効率化は、待ったなしの状況です。

こうした中で、本年4月からスタートする第2次島田市総合計画後期基本計画は、今後4年間のまちづくりの設計図になるものです。将来像に「笑顔あふれる安心のまち 島田」を掲げ、「選択と集中」による質的成長を重視しつつ、「スピード・柔軟性・大局的な判断・利用者目線」をモットーに、時代や社会のうねりに対応した魅力あるまちづくりを推進してまいります。

さらに、10年先、20年先の島田市を見据え、総合計画の8年間の計画期間にはとどまらない長期的な展望に立った「未来につなぐ3大戦略」として、「循環型社会」「縮充」「DX」を掲げました。より良い島田市を次の世代につなげていくためには、未来を想像する力と長期的な展望に立った計画を持つこと、そしてその計画を実行する行動力が必要です。この3点にしっかりと向き合い、取り組むことで、持続可能で豊かな島田市を実現してまいります。

一つ目の「循環型社会」は、SDGs（持続可能な開発目標）やカーボンニュートラル（CO₂の排出量と吸収量を均衡させること）の実現におけるキーワードです。エネルギー資源や自然環境といった視点にとどまらず、空き家や公共施設などのまちのストックや歴史・

文化に至るまで、このまちにある全ての資源を大切に循環させていくことで、持続可能で豊かなまちであり続ける社会を実現していく取り組みです。



空き家を活用したシェアスペース

二つ目の「縮充」とは、人口や税収が縮小しても、真に必要な施策・事業を選択し、資源を集中させることで、地域の営みや住民の生活を充実させていく仕組みを創ることです。コンパクト・プラス・ネットワークのまちづくり、立地適正化計画などもその実現に向けた取り組みです。真の豊かさ、本当の意味での暮らしの満足度を高めるために、市民の皆様とともに「縮充」を進めてまいります。

三つ目は、「DX」です。令和元年の「デジタル変革宣言」後、さまざまな業務のデジタル化に取り組んできました。その中の一つである市の公式LINEは、現在、登録者数が8万7,000人を超えています。これにより、受け取りたい情報・居住地・年齢といった受信設定の特徴を生かして、市民ニーズに合わせたプッシュ型の情報発信が可能となりました。DXの目的は、「デジタル技術やデータをもとに新しい価値を創造する」ことにあります。これまで進めてきた公共施設の予約やGIS地図情報の閲覧に加え、インターネットを活用した行政手続きを順次拡大することで、「窓口に行かなくても、24時間、いつでもどこでも申請や相談ができる」島田市の実現を目指してまいります。



2020年8月に開設した公式LINE

<追記>デジタル機器やSNSは苦手という市民が多くいることも、十分理解しています。デジタルとアナログを上手に使い分けながら、あらゆる分野において、市民サービスの向上と業務の効率化に努めてまいります。